

C3 地域の生活文化が児童の心身発達に及ぼす影響因子に関する児童学総合研究 第14報 C町における保育所季託をめぐり分析 大塚女大家政
○千羽喜代子, 平井信義, 長坂陽雄, 大場幸夫, 中村悦子, 松本寿昭, 川邊恵子, 久保田須賀

本研究に關する一連の研究において, 昭和57年度から3カ年にわたって秋田県下C町のK保育所を対象園としてきた。すなわち, 絵画指導, 読書指導, 気になつた子どもの実態と, 保育所保育実践にかかわる保育者の指導により現地の保育の向上に寄与してゐる。一つの場所
所で長期にわたる研究を行うさいには何らかの住民サービスをはかる必要も生ずる。

第14報では, このK保育園の過去10年間の季託をめぐって, 保育所季託に關する変遷からK地域の保育ニーズをとらえることを目的とした。

対象園: 秋田における保育所設置の黎明期では, 農繁期一時託思ひ小規模常設託児所へという方向をたどつてゐる。C町では昭和40年に農繁期保育所が一時期開設されてゐるが, 本格的にはむしろ戦後の昭和30年から季節保育所にみるこゝろができ, 以後, 簡易保育所, へき地保育所を経て常設認可保育所に至つてゐる。

結果: 保育ニーズに關する聴き取り及び質問紙調査の分析から, 次の5つの事項を明らかにすることができた。

1. 父母の出稼ぎの長期化による冬期保育所保育の必要性。この裏は当地の特性を反映してゐる現象である。
2. 母親外勤の増加による季託時間の延長及び保育所保育への依存
3. 遊び場及び子ども教の減少及び自宅の周辺に遊び友達がいないうちがちな地域性
4. 子どもの養育に關する父親の協力
親及び家族の過保護傾向傾向に対する対応として家庭指導の一環に保育所を位置づける。